

米納選手が区間2位の力走

郡市対抗女子駅伝で上益城郡6位

熊日郡市対抗女子駅伝大会は1月29日、熊本市のびぶれす熊日会館前を発着点に益城町下小谷で折り返す7区間30*₀に19郡市が出場して、上益城郡は6位に入賞しました。大会は県内女子長距離競技者の育成と強化などを目的に、熊本陸上競技会と熊本日日新聞社が主催して、今大会で29回目。本町からは熊本商高1年の米納美菜子選手(辺田見)が初出場して、3区の熊本市東町～益城町安永4*₀を区間2位で力走しました。「緊張はしなかった。最初から突っ込んでいく感じで走った。ラスト1*₀の切り替えができず、スパートができなかった」とレースを振り返る米納選手。序盤にアップダウンのあるコースで2人を抜き、8位でたすきをつなぎました。米納選手は元々、小中学校時代はバスケット部に所属していました。本格的に陸上を始めたのは、高校1年生からという遅咲きの選手です。「身長があまり高くないから、バスケットには限界を感じていた。そんな時、高校で陸上部監督に声をかけられた」と転身を打ち明けます。高校では毎日10*₀のランニングと、月数回のロードレースに出場して力をつけてきました。「同じ高校の3年生に3*₀を10分23秒で走る先輩がいる。2年生になって、その記録を抜くことが目標」と先を見据えます。努力で才能を開花させ、上益城郡を代表するランナーへと成長を遂げた米納選

第3中継所の益城町安永交差点付近でスパートをかける米納選手



手。その小柄な体からは想像もできない、大型のエンジンを搭載する期待のランナーへと進化しています。大会の結果は次のとおりです。

▼総合(郡市名・総合タイム・前大会順位)

- ①天草市 1時間43分09秒②
- ②宇城市 1時間43分16秒⑤
- ③熊本市 1時間44分03秒①
- ④玉名市 1時間45分39秒④
- ⑤八代市 1時間46分37秒②
- ⑥上益城郡 1時間46分55秒③

▼個人(区間・氏名・区間タイム順位・総合順位)

- 3区・米納美菜子選手13分18秒②⑧

思い出を粘土に込めて形に

高木保育園で卒園陶器制作



園児に囲まれて陶器づくりを実演する高田さん(左)

高木保育園(小田芳子園長、67人)で1月18日、卒園を控えた園児15人が陶器づくりを体験しました。これは、近くの陶芸家「いちどうかほ高田一かずみち道さん(高木)が地域への善意で協力して、約20年間取り組まれている園の行事です。手始めに高田さんが、粘土を指先とヘラでかたどり、陶器づくりを実演。続いて、園児たちも粘土約500gグラムを使い、恐竜、象やコップなどの作品を約1時間かけて作りました。直径15センチの一回り大きな茶わんを制作した杉本秀虎ひでとらくんは、「ねんどをこねるところがむずかかった。おちゃわんはママにあげる。できあがりかたのしみ」と陶器の完成を心待ちにしていました。園児たちの陶器は、高田さんがいったん預かり、うわくすりぬ上薬塗り、素焼き、本焼きの作業を経て、1ヵ月後に園へ手渡される予定です。

恐竜ネタを落語に観衆魅了

桂文珍独演会

日本を代表する落語家の一人として知られる桂文珍さんの独演会が1月15日、カルチャーセンターで開かれました。この催しは、宝くじ社会貢献事業の一つで、(財)自治総合センターや熊本県などが主催したものです。独演会は、三味線演奏、漫談や落語などの5部構成で進行。桂さんは、御船町にあやかった恐竜や時事ネタを織り交ぜながら、巧みな話術と独特の切り口で落とし、会場に詰めかけた観衆約500人の笑いを誘いました。観衆の須藤光夫さん(木倉)は、「世相や御船町を取り入れた構成がよかった。観客の反応を見て確かめながら、絶妙な間の取り方も勉強になった。やっぱり笑いは大事。これからカルチャーセンターの催しで、漫才や演芸を開いても面白いと思う」と落語の世界を堪能していました。



身振り手振りで観衆を落語の世界に引き込む桂さん

玄関先をわら束で力いっぱい叩く子どもたち



子どもがわらでモグラ撃退

滝尾地区上梅木でモグラ打ち

30年以上続く伝統行事「モグラ打ち」が1月8日、滝尾地区上梅木で行われました。幼児や園児約10人が参加して、モグラ撃退に使う約70センチのわら束を片手に、集落約20軒を徒歩で回りました。玄関先に着くと「1月8日はもぐら打ち。餅をやらんとし〜らんぼ」と大声を張り上げて、わら束で地面を叩いていました。家主からは「ご苦労さま」と、餅やお菓子のご褒美が振る舞われていました。滝尾小2年の増田愛梨あいりさんは、「モグラがこないようにおもいっきりたたいた」と元気いっぱい話していました。

地域に特製カレンダー配達

七滝中央小で版画カレンダー配り

七滝中央小学校(村上孝利校長、72人)で2月2日、6年生11人が2012年版画カレンダーを地域へ届けました。これは家庭科の授業の一つで、地域連携を目的に、今年で5回目。カレンダーは縦70センチ横50センチのサイズで、田植えや宮相撲などの版画、児童の顔写真が入った作品です。学校周辺の土地改良区や駐在所などに徒歩で配達。「地域とのつながりを深める勉強をしています。カレンダーを飾ってください」と気持ちを込め手渡していました。カレンダーは300部制作され、地域の一人暮らし世帯などへも配られる予定です。



地域に版画カレンダーを届けた6年生11人と担任の山田高正先生